

湯の山線の誕生からこれまで

明 治42年12月、菰野の実業家であった伊藤新十郎らが四日市軌道(株)として菰野〜四日市間の鉄道の営業を申し立てました。これが湯の山線の始まりです。明治44年8月、機関車が四日市港で陸揚げされ、牛車に積まれ、菰野へゆつくり1日かけて運搬され、当時の役場(現、菰野地区コミュニティセンター)付近で組み立てられました。線路などの敷設資材も同様に運ばれ、湯の山〜菰野間から工事が開始されました。期間としては1年ほどで完成し、はじめに湯の山〜川島村間で営業を開始しました。

その後、運営事業者の変更や駅の廃止、台風による線路埋没被害などはありましたが、営業開始当初の路線を残し、現在は近鉄湯の山線として運行されています。



▲昭和25年頃、多くの利用者が列をなす湯の山駅

湯の山線の年譜

大正2年6月1日	「四日市鉄道」が湯の山〜川島村間の営業開始
大正2年9月24日	川島村〜諏訪間が開通して営業開始
大正5年3月3日	諏訪〜四日市間が開通して営業開始
大正10年4月	湯の山〜四日市間にバスが開通
大正10年12月	路線を電化
昭和6年3月	三重鉄道(内部・八王子線)と四日市鉄道が合併し、「三重鉄道」となる
昭和19年2月11日	三重鉄道や北勢電気鉄道などが合併し、「三重交通」となる
昭和19年7月1日	電力節減のため、堀木・製紙所前・小生・神森・宿野の5駅が廃止
昭和39年1月7日	三重交通のバス部門から分離して「三重電気鉄道」となる
昭和39年3月	特殊狭軌を標準軌に改軌
昭和39年3月23日	大羽根園駅の新設
昭和40年4月1日	三重電気鉄道が近畿日本鉄道と合併
昭和45年8月1日	湯の山駅を湯の山温泉駅に改称
平成16年3月18日	湯の山線の定期特急の運行を廃止
平成24年10月	近鉄四日市駅、桜駅、湯の山温泉駅を除く駅が無人化



▲茶畑の中を走る観光列車「つどい」

利用者の声 User's Voice

山中 聡さん
菰野駅→南が丘駅

本数や急行への接続など不満はないです。湯の山線はカーブの多さなどに線路が狭かった時代の歴史を感じる路線ですね。これからMaaSの活用などで渋滞対策などにも一役買うことに期待!

三石 桑大さん
菰野駅→四日市駅

湯の山線がなかったら通学や部活のために高校まで自転車で通わなければいけなくなるので大変です。夏の車内はクーラーが効いているのでとても快適に過ごすことができますのでありがたいです。

平井 佑磨さん
四日市駅→菰野駅

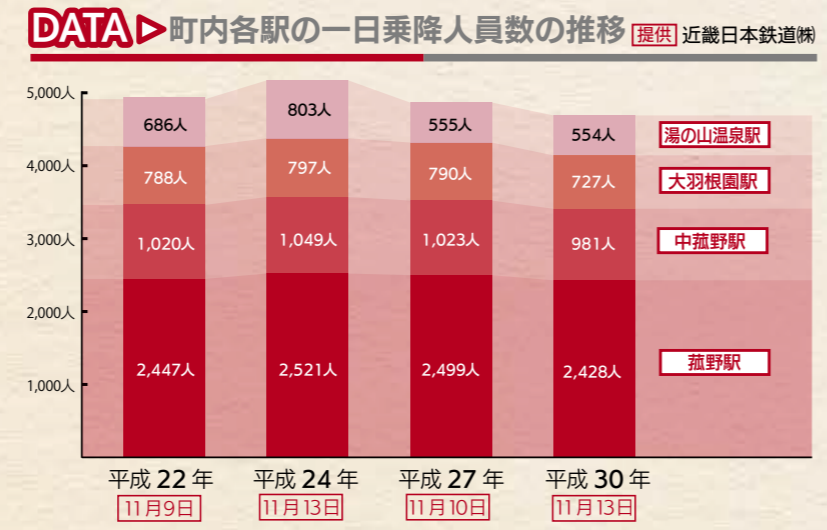
今年、愛知県から菰野町へ引っ越してきて高校への通学に湯の山線を利用しています。車窓から山々を見ながら帰ってこれることが新鮮で、これから3年間、この景色を眺めながら通いたいと思います。

家坂 瞬さん
桑名駅→菰野駅

最近、湯の山線のホーム上でもアナウンスが流れるようになったのでわかりやすくなりましたね。学生の頃から湯の山線を利用しているので、なくなったら困る路線なのは間違いないです。

人 口減少社会の現在の日本では、都市部等の一部の地域を除いて、日常的な通学や通勤の利用者減少は避けられません。そのため、鉄道による移動の魅力を見直し、どのように利用者の確保に努めるかが鉄道各社の命題となっています。平成30年から町と近畿日本鉄道(株)が協力して実施している足湯を設置した観光列車「つどい」もその一環で、これまでは移動手段にすぎなかった鉄道に、足湯に浸かりながら車窓の風景を楽しむことができるという付加価値を設定することで、電車に乗ること自体を観光にしてみようという企画を行い、観光客を中心とした利用者の増加を図っています。

電車に乗ることの新たな価値



安全・安心。さらにその先の価値へ

鉄道での移動は安全・安心はもちろんのことですが、現在は快適かつ楽しく乗車いただくことが求められています。町と協力し、観光列車など体験型の鉄道移動の魅力を伝えることに今後も力を入れて、利用者の獲得を目指していかねばと考えています。



Interview 近畿日本鉄道(株) 名古屋統括部 藤田 浅崇 課長



ずっと生活を支えてきた路線
その足跡をたどる

昭和6年頃の菰野駅からの風景。鈴鹿山脈の稜線や菰野駅近くに建つ西覚寺の屋根から現在と同じ場所であることがわかります。

日本各地で廃線の危機 岐路に立つ鉄道

利 用者が低迷する路線では、廃線という選択が最後に待っています。そのような苦渋の決断に至る事業者が全国的に増加傾向にあります。以前は地元が反対する場合は、路線を廃止できませんでしたが、平成11年に鉄道事業法が改正されたことで、事業者が届け出をすれば廃線できるようになり、人口減少により利用者が減少するなど経営が苦しくなった路線は事業者の意向で廃止できるようになりました。そのため、鉄道の路線バスへの移行などが全国各地で相次いでいます。

現在、近鉄湯の山線は利用者数は減少傾向にあるものの、廃線の予定はなく、通勤や通学の要として運行されています。この当たり前のようにつながれている路線の運行が、実は貴重なことだと実感できる良い機会かもしれません。



各地で存続と廃線の狭間